



Newspaper in Education

静岡新聞で学ぼう



記事を読んで、問いに答えましょう。

2021年8月20日朝刊



静岡大の超小型人工衛星の状況(名称は愛称。カッコ内は正式名。STARS-Xは愛称未定)

名称	宇宙への放出時期	現在の状況
はごろも(STARS-C)	2016年12月	18年3月に大気圏再突入、消滅
あおい(Stars-AO)	2018年10月	宇宙空間で運用中
てんりゅう(STARS-Me)	2018年10月	21年6月に大気圏再突入、消滅
蓬莱(STARS-Me2)	2021年度中	開発中
三光(STARS-EC)	2021年3月	宇宙空間で運用中
STARS-X	早ければ2022年中	開発中

静岡大工学部が開発し、2018年秋に宇宙空間に放出された超小型人工衛星「てんりゅう」が、大気圏に再突入したことが19日までに、能見公博・同学部教授への取材で分かった。燃え尽きたとみられる。アマチュア無線を使った通信が不調で、地上と宇宙空間を結ぶ「宇宙エレベーター」の昇降機に見立てた小型

「てんりゅう」 大気圏再突入

静大の人工衛星

後継機へ技術伝承

ロボットを宇宙で動かすミッションは達成できなかつた。それでも、後継機へ技術は伝承された。

てんりゅうの大気圏再突入は6月26日。人工衛星に関わる各国の団体が宇宙の状況について情報共有しているシステムで確認した。てんりゅうは同大初の超小型人工衛星「はごろも」の後継機。10号角の箱形の衛星が2機つながり、中には金属製ケーブルと小型ロボットが入っていた。宇宙で2機の衛星が分離し、その間をつなぐケーブル上でロボットを動かす計画だった。

通信は18年10月の宇宙空間放出直後から不調だった。浜松キャンパスに設置した基地局は、てんりゅうからの電波の受信も困難な状況に陥った。このため、2機を分離して中のロボを動かすまでには至らなかつたとみられる。

ケーブルの伸展・回収ミッションは、21年に宇宙空間に放出された静岡大衛星「三光(さんこう)」で達成し、小型ロボットを動かすミッションは開発中の「蓬莱(ほうらい)」で試みる予定だ。能見教授は「多くの方の協力をいただいた」と謝意を述べている。(浜北支局・松浦直希)

超小型人工衛星「てんりゅう」。未達成のミッションは後継機へと引き継がれる

2018年7月、浜松市中区の静岡大浜松キャンパス

①記事の「てんりゅう」とは、何のことですか。大きさも含めて書きましょう。

()

②大気圏に再突入した「てんりゅう」はどうなりましたか。

()

③「てんりゅう」が果たす予定だったミッションは何ですか。

()

④「てんりゅう」の後継機として開発中の人工衛星は何ですか。

()

年 組 名前

作問者: 静岡新聞NIEコーディネーター 矢沢和宏

(小学校高学年～中学校、高校/理科、総合)



Newspaper in Education

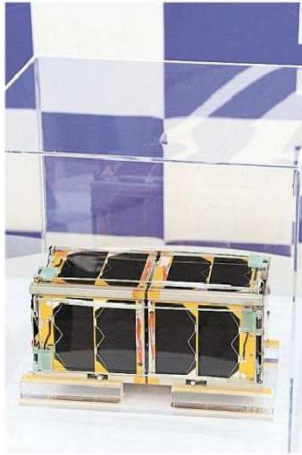
静岡新聞で学ぼう



記事を読んで、問いに答えましょう。

解答例

2021年8月20日朝刊



静岡大の超小型人工衛星の状況(名称は愛称。カッコ内は正式名。STARS-Xは愛称未定)

名称	宇宙への放出時期	現在の状況
はごろも(STARS-C)	2016年12月	18年3月に大気圏再突入、消滅
あおい(Stars-AO)	2018年10月	宇宙空間で運用中
てんりゅう(STARS-Me)	2018年10月	21年6月に大気圏再突入、消滅
蓬菜(STARS-Me2)	2021年度中	開発中
三光(STARS-EC)	2021年3月	宇宙空間で運用中
STARS-X	早ければ2022年中	開発中

静岡大工学部が開発し、2018年秋に宇宙空間に放出された超小型人工衛星「てんりゅう」が、大気圏に再突入したことが19日までに、能見公博・同学部教授への取材で分かった。燃え尽きたとみられる。アマチュア無線を使った通信が不調で、地上と宇宙空間を結ぶ「宇宙エレベーター」の昇降機に見立てた小型

「てんりゅう」 大気圏再突入

静大の人工衛星

後継機へ技術伝承

ロボットを宇宙で動かすミッションは達成できなかつた。それでも、後継機へ技術は伝承された。

てんりゅうの大気圏再突入は6月26日。人工衛星に関わる各国の団体が宇宙の状況について情報共有しているシステムで確認した。てんりゅうは同大初の超小型人工衛星「はごろも」の後継機。10センチ角の箱形の衛星が2機つながり、中には金属製ケーブルと小型ロボットが入っていた。宇宙で2機の衛星が分離し、そ

超小型人工衛星「てんりゅう」。未達成のミッションは後継機へと引き継がれる

2018年7月、浜松市中区の静岡大浜松キャンパス

の間をつなぐケーブル上でロボットを動かす計画だった。

通信は18年10月の宇宙空間放出直後から不調だった。浜松キャンパスに設置した基地局は、てんりゅうからの電波の受信も困難な状況に陥った。

このため、2機を分離して中のロボを動かすまでには至らなかつたとみられる。

ケーブルの伸展・回収ミッションは、21年に宇宙空間に放出された静岡大衛星「三光(さんこう)」で達成し、小型ロボットを動かすミッションは開発中の「蓬菜(ほうらい)」で試みる予定だ。能見教授は「多くの方の協力をいただけた」と謝意を述べている。(浜北支局・松浦直希)

①記事の「てんりゅう」とは、何のことですか。大きさも含めて書きましょう。

((例)静岡大工学部が開発し、2018年秋に宇宙空間に放出された、10センチ角の箱形の衛星が2基つながつた超小型人工衛星)

②大気圏に再突入した「てんりゅう」はどうなりましたか。

((例)燃え尽きたとみられている。)

③「てんりゅう」が果たす予定だったミッションは何ですか。

((例)地上と宇宙空間を結ぶ「宇宙エレベーター」の昇降機に見立てた小型ロボットを宇宙で動かす。宇宙で分離した2機の衛星の間をつなぐケーブル上で小型ロボットを動かす。 など)

④「てんりゅう」の後継機として開発中の人工衛星は何ですか。

(「蓬菜(ほうらい)」)

年 組 名前

作問者: 静岡新聞NIEコーディネーター 矢沢和宏

(小学校高学年～中学校、高校/理科、総合)